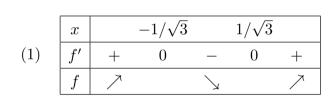
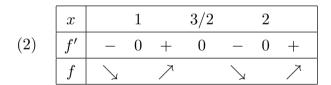
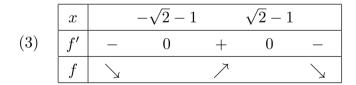
## 微分積分学・同演習 A

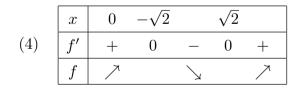
## 演習問題 6

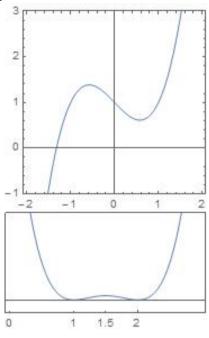
- 1. (1)  $x = -1/\sqrt{3}$  で極大値  $1 + 2/(3\sqrt{3})$ ,  $x = 1/\sqrt{3}$  で極小値  $1 2/(3\sqrt{3})$ .
  - (2) x = 1, 2 で極小値 0 , x = 3/2 で極大値 1/16 .
  - (3)  $x=-\sqrt{2}-1$  で極小値  $(1-\sqrt{2})/2$  ,  $x=\sqrt{2}-1$  で極大値  $(\sqrt{2}+1)/2$  .
  - (4)  $x=\sqrt{2}$  で極大値  $rac{4+\sqrt{2}}{4-\sqrt{2}}$  ,  $x=\sqrt{2}$  で極小値  $rac{4-\sqrt{2}}{4+\sqrt{2}}$

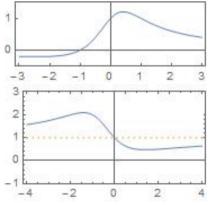












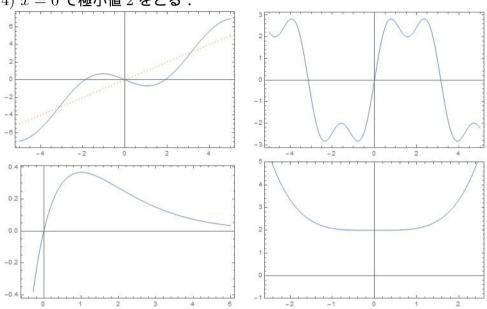
- 2.<sup>†</sup> n は整数とする.
  - (1)  $x=\pi/3+2n\pi$  で極小値  $\pi/3+2n\pi-\sqrt{3}$  ,  $x=-\pi/3+2n\pi$  で極大値  $-\pi/3+2\pi$

5月23日分(凡例:無印は基本問題, † は特に解いてほしい問題, \* は応用問題)

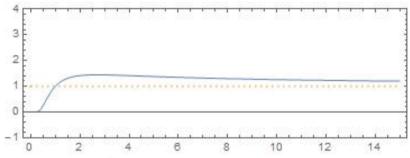
講義用 HP: http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/~h-nakashima/lecture/2017C.html

 $2n\pi + \sqrt{3}$ .

- (2) ×  $x=2n\pi+\pi/2$  で極小値 2 ,  $x=frm-en\pi+\pi/4,\,2n\pi+3\pi/4$  で極大値  $2\sqrt{2}$  ,  $x=2n\pi-\pi/2$  で極大値 -2 ,  $x=2n\pi-pi/4,\,2n\pi-3\pi/4$  で極小値  $-2\sqrt{2}$  をとる .
- (3) x=1 で極小値 1/e をとる.
- (4) x=0 で極小値 2 をとる.

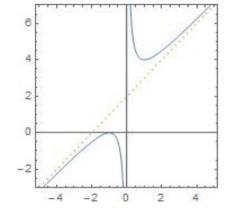


3. x=e で極大値  $e^{1/e}$  をとる.グラフの形からこれがこの関数の最大値になることも分かるので,特に  $e^{1/e}>\pi^{1/\pi}$  が成り立つ.この両辺を  $e\pi$  乗すれば, $e^\pi>\pi^e$  を得る.



4. 条件は  $a = 2\sqrt{b}, b > 0$ .

x		$-\sqrt{b}$		0		$\sqrt{b}$	
f'	+	0		_		0	+
$\int f$	7		$\searrow$	:	$\searrow$		7



- $5. \ g(x) \neq 0$  と仮定する.F(x) := f(x)/g(x) とすれば,F'(x) = 0 であるので F は定数 関数ゆえ f(x) = cg(x) である.
- 6. ヒントにおける  $\lambda,\,\mu$  はそれぞれ  $\lambda=f(b)-f(a),\,\mu=g(b)-g(a)$  となる.あとは 平均値の定理を F に適用すればよい.
- $7^{\dagger}$  (1),(2),(5) は双曲線関数の定義にしたがって計算すればよい。(3),(4) は教科書 p.49 の例題や問題を参考のこと。
- 8. 教科書の解答 p.213 を参照のこと.
- 9. 教科書の解答 p.213 を参照のこと.
- 10.\*  $(a+h)^3=a^3+h\cdot 3(a+\theta h)^2$  より式を整理して  $a+h/3=2a\theta+\theta^2 h$  である .  $a\neq 0$  のときは  $\theta=1/2+h/(ha)-\theta^2 h/(2a)\to 1/2$   $(h\to 0)$  . また a=0 のときは  $h/3=\theta^2 h$  より  $\theta=1/\sqrt{3}$   $(0<\theta<1$  より .